オーディオ実験室収載

アナログアキュライザーの導入(27)
－適用箇所の検討(23)－

１．始めに

前報(13)と前報(14)では、Garrad 401 のアナログ再生における適用箇所の検討を行いました。今回、Garrad 401 のフォノステージの機器構成を替えて、アナログアキュライザーの効果を確認します。

２．アナログアキュライザーの試聴方法

アナログアキュライザーAACU-1000 を Garrad 401 のアナログ再生に適用します。

前報(13)と前報(14)では、再生経路は次のとおりでした。

Ortofon SPU Royal N／FR64s／Garrad 401→【Phono】→4718 信楽→【RCA】→P&G フェーダー→【RCA】→しなの音蔵 300B シングル

今回は、一部機器を入れかえます。

Ortofon SPU Royal N／FR64s／Garrad 401→【Phono】→Byer マイクトランス→【RCA】→iPhono L/R2 台独立使用→【RCA】→P&G フェーダー→【RCA】→しなの音蔵 300B シングル

すなわち、4718 信楽の MC ダイレクト入力から、トランスを使用した iPhono への MM 入力に替えます。

今回、アナログアキュライザーAACU-1000 はトランスの入力側と出力側に入れてみます。

AACU-1000→Byer マイクトランス→iPhono

Byer マイクトランス→AACU-1000→iPhono

上掲の写真では、装着状態を示すために、機器を覆っている Quantum Damping を外しています。

音源は、アナログ盤で Garrad 401 の再構成の確認に使用してきたものです。

3．アナログアキュライザーの試聴結果

上記再生経路において、AACU-1000 有無での音質を確認します。

当初の条件のレベルを上げるために、フェーダーに AACU-1000 を装着しておきますと、この状態では、Achromat や Quantum Damping の効果もあって、従来の Garrad 401 の状況からは随分とクオリティは向上しています。

そこでフェーダーの AACU-1000 を取り外して、AACU-1000 をトランスの入力端子に装着しますと、既にフェーダーに AACU-1000 を装着した音を聴いていますので、変化はそれほど大きくはありませんが、敢えて違いを言えば、三角帽子では、全体に音が柔らかくなり、カンターテドミノでは、オルガンや合唱の濁りが取れます。

中世の古謡のミトマニアでは、ボーカルの口が大きく開いて歌詞が分かりやすくなり、古楽器の質感が把握しやすくなります。

次に AACU-1000 をトランスの出力端子に装着しますと、基本的には AACU-1000 をトランスの入力端子に装着した場合とほとんど変化はなく、同様の効果が認められました。

4．まとめ

ACU-1000 を Byer のマイクトランスの入力端子と出力端子に装着する効果を認めましたが、双方での差はほとんどありません。

以上